

創会立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：関谷 俊征
幹事：鈴木 淑久
広報委員長：鳥山 政明
例会日：毎週木曜日 PM12:30～
会場：ビルト名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：27601nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

2019-20年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ
「50年に向けて新たな第一歩、
会員相互の理解を深めよう!」

2019-20年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ
(ROTARY CONNECTS THE WORLD)



ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

WEEKLY REPORT

第1894回例会

-経済と地域社会の発展・米山月間-
クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

2019年10月12日(土) 雨 第13回 ワールドフード+ふれ愛フェスタ

ワールドフード+ふれ愛フェスタ

10月12日(土)・13(日)に開催を予定しておりましたが、第7回「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」は台風19号の東海地方への接近に伴い、前日の会場設営が不可能な事、交通機関等への影響及びお客様や各出展者の安全優先を考慮し、全面的に中止する事といたしましたとの連絡をWFF実行委員会より頂き、例会を中止致しました。

また、これに代わる代替イベント開催の予定はないとWFF実行委員会より報告を受けました。

例会のご案内

■今週の行事

10月17日(木)

行事：1895回例会及びI.D.M.
時間：18:00～20:00
場所：神宮茶屋 金山北店

■次週の卓話

10月24日(木)

テーマ：意外と知られていないベトナムの事
卓話者：米山奨学生 グエン ティ カリン さん

■次々週卓話

10月31日(木)

テーマ：明日から実践できるトヨタ式
ワンポイント講座
卓話者：OJTソリューションズ営業部
営業企画マネージャー 岡内 彩 さん

難民支援に尽力した6名を表彰

世界的な難民問題をテーマとした国連でのロータリーデーにおいて、「Rotary People of Action: Connectors Beyond Borders(世界を変える行動人:国境を越えてつなぐ人)」としてロータリーファミリーの6名のメンバーが表彰されます。

ニューヨークの国連本部で毎年開催され、今年は11月9日に行われる「国連でのロータリーデー」は、平和に対するRCと国連の共通のビジョンに焦点を当てるイベントです。RCと国連の協力関係の長い歴史の中で、ロータリアンはこれまで、戦争や飢餓、災害で苦しむ人びとを支援してきました。

現在、世界の難民数は戦後最大に達しています。今回表彰された6名(ロータリアン5名、ロータリー平和フェロー1名)は、難民問題に対して地域社会に根ざした解決策を提案し、率先して行動してきました。

ベルント・フィッシャー

クラブ:ベルリン・RC(ドイツ)

プロジェクト:難民女性のドイツ社会への順応



内容:元外交官のフィッシャーさんは、240人の難民女性のドイツ社会への順応を支援する補助金プロジェクトで、ヨーロッパとアメリカのRCの調整役となり、日常生活で障害となる文化や言語の壁を克服できるよう支援しています。このプロジェクトでは、子どもを抱える女性100人に研修を提供し、それぞれ

の言語でのアドバイスや職業訓練、就職斡旋を行っているほか、治療やメンタルケアが必要な親のための保育支援も行っています。

ルシエンヌ・ヘイワース

RCとの関係:ロータリー平和フェロー(ウブサラ大学/2015-17年)

プロジェクト:中東を中心とした有事の際の教育カリキュラム

内容:ヘイワースさんは「有事の際の教育」というカリキュラムを開発しました。このカリキュラムの教材を使用することで、紛争で居場所を失った人を対象に仮設の学習スペースで勉強を教えることが



ができます。このようなスペースは地域社会全体にとって安全な場所となっており、食料や衛生、健康といった家庭の基本的ニーズを満たす役割も果たしています。紛争地帯における教育を専門とする以前は教師として働いていたヘイワースさん。現在は中東地域を中心に活動しています。

イルガ・カランカク-スプレーン

クラブ:モンテレー・キャナリイロウ・RC(米国カリフォルニア州)

プロジェクト:トルコにおけるシリア難民の子どもを対象とした教育と順応プロジェクト

内容:2017年にトルコの難民キャンプ数カ所を訪れたカランカク-スプレーンさんは、その後、複数のRCのまとめ役となり、難民キャンプで暮らす人びとに医薬品や衛生品、毛布、靴や靴下を



配布しました。多くの子どもが教育を受けられない環境に置かれたのを目にしたカランカク-スプレーンさんは、自身が所属するRCと共にグローバル補助金プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトにより、コンピュータ室の機材だけでなく、美術や音楽、映像のワークショップ、スポーツ活動、教員養成などに必要な資材も充実し、教育の質が向上しています。

ハシナ・ラフマーン

クラブ:ダッカ・マーベリックス・RC(バングラデシュ)

プロジェクト:バングラデシュにおけるロヒンギャの子どもたちを

対象とした栄養支援



内容:人道支援団体「コンサーン・ワールドワイド」のバングラデシュ支部長補佐を務めるラフマーンさんは、複数のRCやパートナー機関に呼びかけて資金を集め、外来医療センターを設立しました。そこでは、ミャンマーでの暴力から逃れ、バングラデシュのココスバ

ザール難民キャンプにたどり着いた子どもや妊婦を対象に救命予防ケアや栄養支援を行っています。外来医療センターではこれまで50万人以上のロヒンギャの子どもを診察し、深刻な栄養失調に陥った子ども7千人以上を救ってきました。同センターのスタッフやボランティアは幼児や小児の食事摂取に関する知識があり、難民の家族に対してそれぞれの言語で授乳や適切な衛生に関する情報を提供しています。

エース・ロビン

クラブ:マタラム・ロンボク・RC(インドネシア・マタラム)

プロジェクト:震災被災者のための災害救援・住宅支援

内容:ロビンさんは所属するクラブと地域社会の先頭に立ち、



2018年にインドネシア・ロンボク地方で発生した一連の地震で被災した人びとを支援しています。災害支援団体「ShelterBox」の対応チームで連絡担当者を務めていたロビンさんは、ロンボク近郊に仮設住宅230戸を建設するプログラムを立ち上げました。ロビンさんとクラブのメンバーは被災者のために

水や食料といった必需品を届け、また児童のために教材や制服、靴、鞆も提供しました。

ヴァンデルレイ・リマ・サンタナ

クラブ:ボア・ビスタ-カサリ・RC(ブラジル・ロライマ)

プロジェクト:ベネズエラ難民を対象とした人道支援

内容:サンタナさんは、ベネズエラの悲惨な経済状況から逃れ、



ブラジル北部へとたどり着いた何千人もの難民を迎え入れ、彼らの生活をサポートしています。サンタナさんのRCはブラジル政府や非営利団体と連携し、バス停付近の広場に設置された仮設シェルターや路上で暮らす1千名以上もの難民に食事やワクチンを提供、また職業訓練や宿泊場所の確保をしています。